

作品の閲覧

2026-3-26

『山海記』

何でも読もう会

書物名	「せんがいき」 『山海記』	開催日	出席者
作者	佐伯 一麦	3月26日	5名
<p><作品の内容等></p> <p>大和八木～新宮までの日本一長距離の特急バスに乗り、2011年の「東日本大震災」の被災者である彼（作者）が、同年に起こった「紀伊半島大水害」の被災地十津川村へ旅する。その道中で、彼が取材を兼ねて訪問した日本各地の自然災害が描かれる。「軽井沢のバス転落事故」「羽越豪雨」等。</p> <p>十津川村で話を聞いたのは、土産屋や飲食店のおばさん、民宿のお年寄り、バスの運転手等々そこで生活する人々である。</p> <p>また、十津川村の地名にまつわる歴史や史跡・旧跡を語る時に引用する古典・文献に圧倒される。とりわけ天誅組の本陣のあった場所や高取城襲撃の様子も描かれる。</p> <p>併せて、東日本大震災の様子や友人唐谷の自死が挿入されていく。</p> <p><皆さんの感想意見></p> <p>主な意見等</p> <ul style="list-style-type: none">・災害の様子の聞き取りから、その地にいるような臨場感が、そして地元の話からは日常感が、醸し出された。・我が国は自然災害が避けられないだけに、改めて各地の状況を知り、それを活かす姿勢が必要と痛感した。・十津川村の歴史に興味を持ち、いろいろ調べてみた。 ⇒尊王精神が高く、その功績から免訴特権が与えられた。 ⇒周辺から隔絶された山深い地形のため、半ば独立した共同体として独自の文化を築いてきた。・いろんな話を挿入しているため、その続きが解りにくかった。行の空きを入れてほしい。・友人唐谷の話が必要だったのか。とはいえ、私小説作家としての面目かもしれない。 <p style="text-align: right;">等々</p>			